

# 北方学園構想に関するアンケート調査 ご協力のお礼と調査結果について

皆様には日頃より町教育活動にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

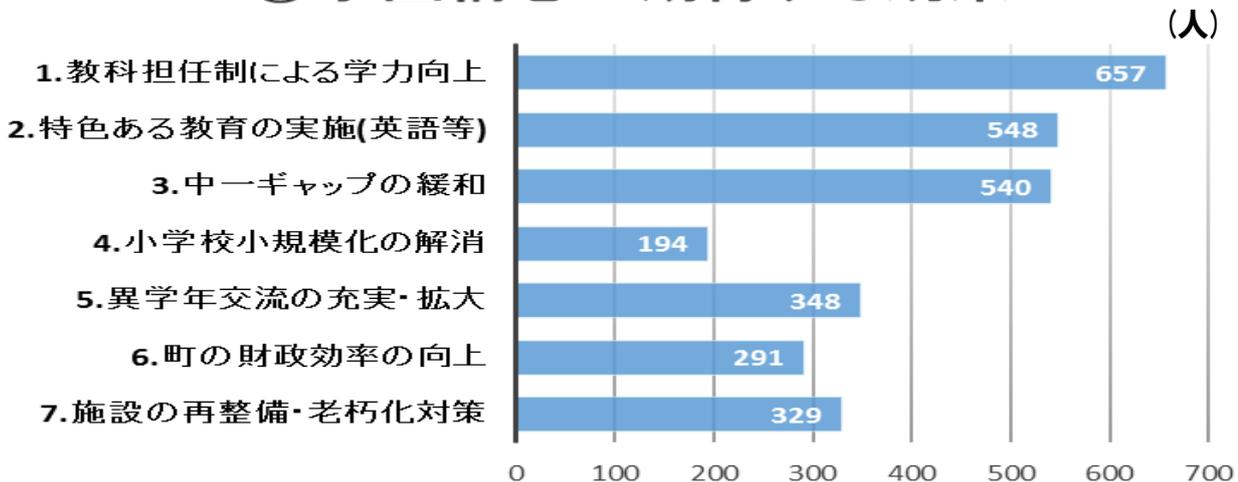
さて、先日は北方学園構想に関するアンケート調査にご協力頂きありがとうございました。アンケートで寄せられました皆さんの貴重なご意見は、今後具体的な協議を進めていく中で、参考にさせていただきます。

遅くなりましたが、アンケートの集計結果についてお知らせしますので、よろしくお願い致します。

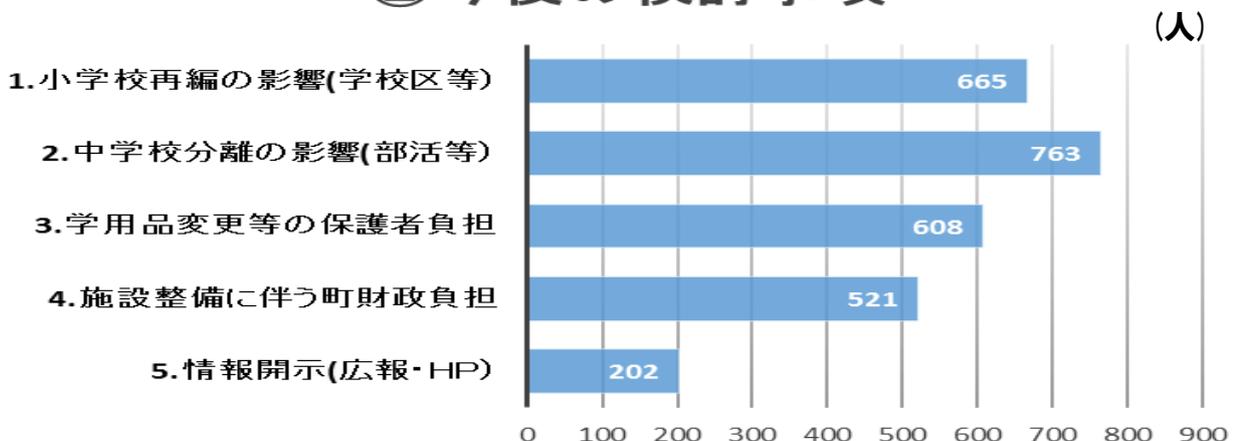
平成30年7月 北方町学校構想検討委員会

アンケート回答総数(保護者分) **1363通** (幼稚園 81通、保育園 305通、  
小学校 614通、中学校 363通)

## ① 学園構想に期待する効果



## ② 今後の検討事項



(全体の傾向)

- ・教科担任制導入、特色ある教育の実施、中一ギャップの解消に対する期待が多い。
- ・学校区等の変更、部活動のあり方が検討事項として関心が高い。

### ③その他、自由記述欄より主な質問等について

Q 学校区はどうなるのですか。

A 第2回学校構想検討委員会にて、北学園は北方小学校と北方西小学校の校区、南学園は北方南小学校の校区とすることが望ましいとの結論が出されました。町としても検討委員会の意見を尊重して、校区を決定する予定です。

Q いじめ問題が心配です。(9年間いじめが続かないか。人間関係が固定化しないか。)

A 小中一貫した生活ルールの導入や異年齢活動の充実、小中の生徒指導連携の強化、9年間を通した子ども理解などにより、より落ち着いた学校生活を送ることが期待できます。また、どうしても学校になじめない場合は、2校の学園間で転校するなどの対応も可能となります。

Q いわゆる中一ギャップは北方町でもあるのですか。高一ギャップは無いのですか。

A 中学校進学時に不登校などの問題行動が増える事例は北方町でもあります。義務教育学校では、7年生(中学校)に進級するときに、同じ学校に自分のことをわかっている先生が何人もいることなどから、7年生で途切れることなく、連続して子どもがよさを発揮できることが期待できます。また、子どもたちが12歳頃の未成熟な時期を乗り越えることで成長し自信をつけ、その後の高校、大学での試練を乗り越える力を着実に身につけられるのではないかと考えます。

Q 学校運営が合理化され、先生が減るのですか。

A 中学校が2つに分かれることにより、中学校の先生の数が増える見込みです。また、小中学校の先生が1つの職員室に集まるため連携が深まり、9年間を通した一貫性ある指導を行うことができます。

Q 町の財政負担が心配です。

A 校舎等の老朽化が進んでおり、現在の4校体制を維持するためには大規模な改修・建替えが必要なため高額な費用がかかります。北方学園構想では、今後の子どもの減少などを勘案し、適正な規模の教育施設の体制を整えることを前提としています。財政効率の面でもより効果的な施設配置を検討していきます。

